

# 皮膚科

## 1. 目的と特徴

医師である前に人としての基本的姿勢を身につけ、患者さんの目線に立った医療を実践できる人材の育成を目指し、皮膚科学全般の広範な知識、技能を修得し、臨床の場でそれを実践し、さらには皮膚科学研究にまで応用可能となることを目標とする。その結果として、皮膚科専門医取得が可能となる。

## 2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	石黒直子	准教授	福屋泰子
准教授	山上 淳	講師	竹中祐子

## 3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学皮膚科

研修協力施設：聖母病院、立川相互病院、東京女子医科大学附属八千代医療センター、  
浜松医科大学、筑波大学

## 4. 研修カリキュラム

### A：一般目標

患者さんの苦しみを理解し思いやる、豊かな人間性を有し、医師としての社会に対する使命感、責任感をもち、その上で皮膚科臨床医として必要な基礎知識はもちろん、幅広い知識と技能を修得することを目標とする。

### B：行動目標

- 1) 皮膚科診療に必要な基本知識および幅広い知識を修得し、臨床に応用する。
- 2) 皮膚科診療に必要な検査、治療などの技能に習熟し、臨床に応用する。
- 3) 皮膚病理組織所見に習熟し、所見を正確に記載し、診断できる。
- 4) 病態を把握し、無駄のない検査を実施する。
- 5) 外来、病棟の手術で助手、術者をつとめる。
- 6) メディカルスタッフと協力し患者の問題点を解決する。
- 7) 患者、家族の訴えを真摯に聞き、患者の苦痛に思いやりを示す。
- 8) 治療方針について上級医師、指導医と相談する。
- 9) 患者、家族に病状、治療方針を説明する。
- 10) 医療安全管理の基本を理解し、実践する。
- 11) カンファレンスに参加して、自らも積極的に討論に加わる。
- 12) 最新の医療情報を取得する。
- 13) 学会に参加し、発表する。発表内容を論文として投稿する。
- 14) 医療記録(診療録、手術記録、病歴要約)、診断書、報告書を遅滞なく正確に記載する。
- 15) 皮膚科専門医試験受験資格を取得する。
- 16) 上記すべてに対して下級後期臨床研修医を指導する。

### C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

研修1年次	病棟	皮膚科検査、皮膚科治療、手術、化学療法、皮膚病理
	外来	皮膚科検査、皮膚科治療、手術、皮膚病理

2年次以降	病棟	皮膚科検査、皮膚科治療、手術、化学療法、皮膚病理
	外来	外来再診医、皮膚科検査、皮膚科治療、手術、皮膚病理 専門外来選択
	出張	外来再診医、皮膚科検査、皮膚科治療、手術、化学療法 皮膚病理
5年次以降		皮膚科専門医試験
	病棟	皮膚科検査、皮膚科治療、手術、化学療法、皮膚病理
	外来	外来再診医、皮膚科検査、皮膚科治療、手術、皮膚病理 指導医、専門外来チーフ補佐

#### D：週間予定

月曜日午後：専門外来（乾癬）

火曜日午後：皮膚生検、外来手術、専門外来（レーザー美容、アトピー性皮膚炎、パッチテスト）

水曜日午後：専門外来、（膠原病・蕁麻疹、水疱症）

木曜日午前：病棟手術

木曜日午後：教授回診（回診後カンファレンス）、皮膚生検、病理組織検討会、医局会、症例検討会、研究カンファレンス（随時）

#### E：評価

外来医長、病棟医長、専門外来チーフ、指導医あるいはメディカルスタッフの長から遂次形成的評価を受ける。研修項目は日本皮膚科学会が専攻医向けに提示した内容に準じて設定されている。1年終了毎に、実績・評価シートに記載し、スタッフと面談を行い評価を受け、教授の承認後にフィードバックを受ける。各後期臨床研修医の研修実績が平均化されるように管理、運営される。

### 5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後に東京女子医科大学皮膚科に就職を希望するものは、教授・基幹分野長を含むスタッフ会議で協議し、助手もしくは助教として採用を検討。

### 6. 学位

研究論文が掲載された後、基幹分野長との協議のもと、後期臨床研修医の学位の申請が可能である。臨床系大学院生は博士課程の修了時に医学博士の学位が授与される。

### 7. 専門医

研修中ないし研修修了後に日本皮膚科学会認定専門医試験に合格することにより、皮膚科専門医を取得することができる。

### 8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学 皮膚科

医局長 福屋泰子 研修医担当 竹中祐子

TEL：03-3353-8111（内線：37313）

FAX：03-5269-7618